

例えば文字を大きくするとか、大きく見開きで見えるようにするとか、そういった工夫を今後重ねていていただく必要があるんだろうなというふうに思っております。

それと、今後の取組につきましては、SDGsと御発言がありましたが、私もSDGs全部読みましたけど、非常に分かりにくい部分もございまして、そういった意味ではSDGsの取組の中でやっていただくのも必要かと思いますが、その辺は今後中央公園の造成等に関しても、そういった観点からいま一度見直していただきたいと思います。以上で質問を終わります。

議 長 以上で、6番議員、岡田幸二君の一般質問を終わります。

引き続き、通告5番、5番議員、山崎真弘君。

5 番 皆さん、こんにちは。5番議員の通告5番、山崎でございます。

新型コロナウイルスによって多くの町民の皆さんが、今もって不安に思われているというふうに思っています。そういった中で、東京はじめとし、9都道府県はこの6月20日まで緊急事態宣言を延長という形を取り、そしてまた、神奈川県に至っては20市町村でも、また小田原、秦野近隣のところもまん延防止等重点措置という結果になっております。そういった中で多くの皆さんが本当にコロナに勝つという状況がいつなんだろう、いつ収束するんだろう、そう思われている多くの皆さんと話をしても、今もってその話が毎日のように続いているわけでございます。この状況、やはり医療従事者、また高齢者から始まったこのワクチン、これが唯一の私は処方箋であろうというふうに思っております。やはり治療薬がないというのが今の現状なんだと思っております。多くのところで、多くの市町村の中で高齢者等始まっておりますが、少しずつ接種をしながら時期も決められているという状況でございます。私は今回2つの質問をさせていただきます。ワクチン以上に大切な問題。

まず、1点目でございますが、小田原市立病院と足柄上病院との連携・協力について。新型コロナウイルス感染症予防接種について、2点目でございます。

小田原市と県、県立病院機構は、小田原市立病院と県立足柄上病院との連携・協力による協定を締結した。協定に基づいて、足柄上病院が担ってきた周産期医療機能を廃止する方針となった。分娩ができずに苦勞する妊婦の声は多く、町としての考えを伺う。

2点目として、新型コロナウイルス感染により町民の社会生活、そして経済活動、収入減少等あらゆる生活計画に影響し、大きなダメージを受けている。この状況から一刻も早く抜け出すためには、やはり今はワクチン接種が唯一の手段と言える。本町では既に医療従事者、高齢者の接種が始まっているが、各自治体においては過誤、供給による問題点も発生しており、接種の現状について伺う。

(1) 現在までの進捗状況について

(2) ワクチン接種のリスク管理について

(3) 今後の接種スケジュール、接種場所等について

改めて伺いたいというふうに思っています。

以上、登壇からの質問とさせていただきます。

町長 通告5番、山崎議員からは、「小田原市立病院と足柄上病院との連携・協力」と「新型コロナウイルス感染症予防接種」について、2項目の御質問をいただいております、順次回答いたします。

まず初めに、大きな項目の1つ目、小田原市立病院と足柄上病院との連携・協力について回答させていただきます。県西地域における医療提供体制におきましては、人口減少と高齢化が急速に進む中、将来にわたり足柄上病院が安定した医療を提供していくため、公的病院である小田原市立病院と足柄上病院が緊密に連携及び協力していくことが重要になってきています。また、小田原市立病院の再編整備や国からの公立病院の再検証という動きを踏まえ、両病院が将来を見据えてどういった形で連携・協力を行っていくかを多くの意見をいただきながら進めていく必要があるとの考えのもと、地域医療機関と関係行政との間で意見交換を行い、進めてきたところでございます。さらに今般の新型コロナウイルス感染症対策では、救急医療や感染症対応、災害時医療や地域の医療機関との連携などの課題が明らかになり、こうしたことも踏まえながら、本年3月に小田原市立病院と県立足柄上病院との連携・協力の方向性について、小田原市立病院、病院機構及び県の3者の協議がまとまり、基本協定を締結したところでございます。議員より質問がございました1点目の協定後の足柄上病院の役割についてになりますが、方向性に定められた足柄上病院の役割につきましては、県西構想区域内の医療提供体制の確保等を目的に、1つには小田

原市立病院と両方の病院で同じ機能を有するもの、もう1つは病院ごとに機能を分化し、充実強化させるものとございます。同じ機能としては、災害拠点病院としての災害時の診療維持、医療人材育成や総合的な診療体制の維持、基幹病院として必要な医療確保などになってきます。また、機能分化し充実強化していくものとしては、小田原市立病院が主に高度専門医療やがん診療連携拠点病院の医療を有するのに対し、足柄上病院においては、二次医療救急医療機関としての急性期医療の提供や、急性期から在宅医療の後方支援までのシームレスな回復期医療の充実や高齢者医療支援病院としての地域医療への積極的支援、そして第二種感染症指定医療機関としての二類感染症や新興感染症に対する治療の提供が主な機能となってきます。また、これまでどおり住民の健康管理として成人の健康診査やがん検診などを行っていくほか、小児の診療や保健事業についても積極的に取り組むこととなります。昨年度まで町の幼児健診の一部は小田原市立病院に依頼しておりましたが、この4月から小児科医の派遣については、両病院の調整により、足柄上病院が全面的に御協力いただける体制となりました。以上が、協定後の足柄上病院の役割についてとなっております。

続きまして、足柄上病院の分娩停止についてになりますが、実はこれまでも産科医不足により、2005年度に分娩予約を一時休止し、その後産科医を確保したものの十分な体制を取ることができない状態が続いておりました。その状況が長く続き、2011年度より助産師のみで対応する院内助産を導入しましたが、助産師だけでは対応できる件数も限られており、医師が行う処置なしで分娩可能でないと受入れができないという制限もございました。あわせて、2017年度からは医師による分娩を停止していたため、近年では大井町では妊娠の届出や出産連絡票などで把握する限り、足柄上病院で分娩する実質件数はゼロに近い状態が続いております。さらに、昨年からは新型コロナウイルス感染症の神奈川モデルの重点医療機関の指定や病院の再編ということもあり、事実上分娩廃止となっている状況で、小田原市立病院をはじめとする他の産科で分娩を受け入れていただいている状況であります。今回の連携・協力の方向性においては、県西地域の分娩を小田原市立病院に集約する方針になっており、現時点では現状のニーズに応えられている状況と認識しており、両病院の再整備に伴う機能維持のための機能分担や機能集約化については、やむを得ないものと理解して

いるところです。しかしながら、足柄地域1市5町の間では、今回の協定締結を踏まえ、神奈川県に対して足柄上地域の分娩可能な医療機関の数や地域の分娩数などの状況の把握を常にお願いとするとともに、必要に応じて足柄上病院の分娩再開を検討することを含めて、質の高い医療サービスを安定的に提供することができるよう、医療体制の充実強化について要望を続けていく所存です。

以上、町といたしましては、引き続き住民の皆様の安心を得られるよう意見交換しつつ、近隣市町と連携した中で医療の必要性を見据えながら、必要な要望などの動きを行っていきたいと考えております。

次に、「新型コロナウイルス感染症の予防接種について」3点の御質問をいただいております。順次回答いたします。

まず初めに、現在までの進捗についてお答えいたします。本町では4月下旬から、住民接種に先駆けて医師や看護師等の医療従事者の接種が行われました。歯科医師や薬局の薬剤師など、そのほかの医療従事者の接種につきましても、6月1日から住民接種を開始するために、本来は県の業務でありましたが、町が接種希望者の把握や町内医療機関への接種依頼等の調整を行うことで、県のスケジュールよりも先行して開始し、5月中に終了させることができました。

続いて、住民接種について接種方法ごとにお答えいたします。集団接種につきましては、5月19日から大井町総合体育館を会場として開始いたしました。既に御案内のとおり、足柄上郡においては5町が合同で実施しており、複数の自治体が合同で実施するのは県内で唯一の事例であることから、接種初日の様子は報道等でも取り上げられ、皆様も御覧になられたことと思います。集団接種の実施に当たり、他町の実施状況の視察や医療関係者やスタッフ等によるシミュレーションの実施などにより万全を期したことから、開始から2週間がたちましたが、大きな混乱はなく実施できているものと感じております。また、接種終了後には医師の方や現場スタッフの方と意見交換を行い改善に取り組んでおりますので、回を重ねるごとに、より安心かつスムーズに接種を受けていただける体制ができるものと考えております。

次に、各医療機関で接種を行う個別接種の状況についてお答えいたします。町内においては6つの医療機関で接種を実施することとなり、5月17日から予約を開始しましたが、即日全ての医療機関で想定していた予約枠がいっぱいと

なり、受付を終了いたしました。今後は6月14日以降、順次医療機関で第二弾の予約受付が開始されることとなっており、詳細につきましては、昨日自治会を通して配布いたしましたチラシに掲載しております。接種状況につきましては、昨日から始まったばかりでございますが、特に問題等は報告されておりませんので、大きな混乱もなく接種が行われたものと考えております。

次に、2点目の質問のワクチン接種のリスク管理についてお答えいたします。まずワクチンの供給についてですが、当初はなかなか供給日が示されず、また供給量もごく僅かであったため、接種計画を立てる際に大変苦労いたしました。しかし、現在は安定的にワクチンが供給されるとの連絡があり、計画どおりに接種ができるものと見込んでおります。最終的にワクチンは必要数確保されますので、町民の方には慌てることなく接種を受けていただくよう周知していきたいと考えております。

続いて、ワクチンの取扱いと接種に関するリスクについてお答えいたします。現在使用されているファイザー社製のワクチンは、通常のワクチンに比べて取扱いが難しく、マイナス75度での冷凍保管や解凍後の細かな温度管理が求められており、報道等で管理ミスによるワクチンの廃棄などが問題とされました。また、接種に際しても希釈用の生理食塩水のみを接種してしまった事例や、使用済みの注射器を使用した事例などが報告されております。本町においても、このようなリスクを回避するため、停電時に自家発電装置が作動して電力が確保できる町保健福祉センターに超低温冷凍庫、いわゆるディープフリーザーを設置してワクチンを保管するとともに、解凍の際は時間を表記することにより、管理ミスが起らないように対策を講じております。また、ワクチンの正しい取扱方法を学ぶため、ファイザー社の方を講師にお招きし、集団接種に御協力いただく医師や看護師、薬剤師などの方を対象として、事前説明会を2回実施いたしました。実際に会場でワクチンの希釈や充填を行う際も必ず2名以上で実施することで、間違った取扱いがないように厳重にチェックしております。間違いやすい状況が発生した際は、その都度スタッフ間で話し合い、改善したことを情報共有し、事故が発生しないように努めております。また、ワクチンのリスクといたしまして、接種後のアナフィラキシーショックや副反応が挙げられます。そのようなことが起こらないように、集団接種会場では予

診の前に薬剤師や看護師が予診票をもとに、既往歴や内服状況をできる限り聞き取って医師の予診につないでおります。そして、万が一被接種者がアナフィラキシーショックや重大な病変を起こした際には、適切な緊急措置をするために、会場内にエピペンやアドレナリンなどの医療資材を確保するとともに、急変時の対応を当日の医療従事者と、迅速かつ適切な対応ができるよう、事前に役割の確認を行っております。また、小田原市消防及び足柄上病院に対し、緊急時における搬送対応を依頼しております。以上のことはほかの予防接種でも行っているリスク管理ではありますが、ファイザーワクチンはまだ世界的にも新しいワクチンですので、より慎重な対応が必要と考えております。しかしながら、集団接種会場では接種を受ける方のかかりつけでない医療従事者が対応することとなりますし、医療機関ほどの設備は設けられませんので、過去に予防接種などでアナフィラキシーショックなどの経験のある方が接種を希望される場合は、集団接種会場ではなく、設備が整っている医療機関で接種を受けていただくようお願いすることといたしました。こういった対応については、常に医師会と相談しながら進めております。万が一健康被害が発生した際の手続方法をお知らせするために、接種を受けた方に対し、救済給付を行う予防接種健康被害救済制度のチラシを配布しております。本町においては、これらの対応によりワクチン接種に関する様々なリスク管理に取り組んでおります。

次に、3点目の質問の今後の接種スケジュール及び接種場所等についてお答えいたします。高齢者の方へのワクチン接種につきましては、国の指示のもと、当初は3月下旬から接種を開始できるように体制を整備していたところですが、ワクチンの供給の遅れや医療従事者の方への接種の遅れから計画が後ろにずれてしまいました。このような中、4月下旬に国より、7月末までに65歳以上の高齢者の方の接種を終了させるよう、指針が示されたところであります。現時点における町内の接種予定者数は、医療機関で実施する個別接種が週200人程度、集団接種が週210人となっており、期間内に全ての対象者の方に接種を終了させることは難しい状況であります。そのため、町内医療機関に対しては、接種数を増やしていただくよう要望を続けるとともに、集団接種の実施日を増やすことについても検討を行っております。検討に当たり、まず足柄上医師会に相談をしたところ、日々の診療に加えてワクチン接種を行い、診療が休みと

なる曜日に集団接種を実施しているため、これ以外の日程で医師を派遣することは難しいとの回答がありました。そのため、現在足柄上郡5町では町が用意する会場に国や県から医療従事者の派遣を受け、集団接種を実施することができないか、県と調整を行っております。調整がつきましたら、急ぎ町民の方への周知及び予約受付を実施した上で接種を行い、7月末までの完了を目指して事業を加速させていきたいと考えております。集団接種の会場につきましては、御案内のとおり、大井町総合体育館での実施は7月22日までとなりますので、7月25日以降は足柄上合同庁舎で実施する方向で県と調整を行っております。

以上、答弁とさせていただきます。

5 番 答弁をいただきましたので、再質問をさせていただきます。

まず、(1)のことになりますが、協定後の足柄上病院の役割について、答弁の中で詳しく確認をさせていただきました。やはりこの中をしっかりと見ると、協議の中にやはり実際に具体的に何をやるんだということを、かなり具体的に書いてない部分があったものが散見されました。やはりどうしても協議の中に参加される方というのが、この小田原市、それから県、それからこの3者会談の中でこの3名だけだろうというふうに思います。この中には1市5町の方たちは入られるのでしょうか。

町 長 当初は入っておりません。小田原市と病院機構、上病院の3者で話合いが進められて、その結果といたしますか、中間と言ってもいいのかもしれないけど、方針を示されて5町首長がそれを聞いたと思います。1市5町です。

子育て健康課長 この小田原市立病院と県立足柄上病院との連携・協力につきましてですが、これにつきましては、その締結協定をする前に、関係市町、また近隣の病院との間に方向性について意見交換会を副町長レベル、副市長レベルで行った中で進めてきた経過もございます。

5 番 やはりこの3者だけ以外にも町の方、ほかの市町の方が入ってしっかり意見交換するということはとても大切なことだろうというふうに思っています。その中でこれ見ると、今まで2017年まで行っていたがん放射線治療ということについて、既にもう足柄上病院は一切やらないということになっているようでございます。私は足柄上病院というのは何の役割をするのかということの一つの今回のことについてのキーワードをちょっと挙げてみました。やはり足柄

上については高齢者医療、それから感染症、地域支援病院、在宅、この4つがメインではないかなと思います。本来なら周産期とか、あるいはがんに対する医療、こんなものを本当ならやっていかなければいけないんだと私は思っています。そうしなければ、この足柄上病院というのはいずれまた少しずつ大きな病院に役割がいつてしまうんじゃないかなと思うところです。そういう意味で、このがん放射線治療の断念というのは、私は非常にこの地域の人にとってみたらかなりマイナスになるんじゃないかなと思います。多くの方が利用するわけではないかもしれないけど、でもそういった一つの治療方針、一つの武器というものはあるかと思しますので、その辺はいかがでしょうか。

町長 その件はまさに1市5町の首長で声をそろえて言っている部分であります。しかしなぜこうなったのか、また、私たちも先ほど答弁でありましたように、致し方ないという気持ちが湧いてきた次第です。と申しますのは、産科医師が少ないという状況があります。また、医療設備も小田原市のほうに先進的な医療機器を集中することによって、高度な医療ができるという説明がありました。じゃあ上病院はそれでいいのかということになりまして、人口減少で、子供を増やすといったときに、1市5町は、じゃあ子供を産む場所もないじゃないか。当然そう思います。ところが産婦人科のこと、私も医者じゃないから分かりませんが、いろんな難しいハイリスクのお産等がとても今の状況だと対応できないと。それだったら小田原に集中して、そこで充実した医療と産科体制を取ったほうが、しいては町民のためにいいんじゃないかという。大きな考え方をするとそういうところだろうと理解しております。

かといって、じゃあいいのかということで先ほども言いましたように、今後の動向を見まして、状況を把握した中で、できるだけお産もできるように進めていって、これは言っているだけかもしれませんが、実際問題お産のハイリスクというのがなかなか、町民といいますか、医療事故とかそういったことで難しい部分があるようです。また、産科になる医師もいないという状況にあります。そういったことを総合的に判断して、この際しょうがないのかなというような、そんなところであります。

5 番 このやはり役割という部分については、まだまだ議論の余地が私はあるというふうに思っています。医師会長、また院長先生等との話をさせてもらって

る中でも、いい先生がいればぜひ来てもらいたいんだというお話もいただきました。そういう意味でも、まだまだ諦めるということはないのではないかなと思っています。

また、分娩について、次の質問にさせていただきたいと思います。分娩のほうに入る前に、1つ御紹介をしたいというふうに思っています。

このパネルを見ていただければと思うんですが、これは15歳から49歳の女性、人口10万人に対して産婦人科医、あるいは産科の医師がどれぐらいいるのかということを示したグラフでございます。これは産婦人科学会、また医師会、歯科医師会、薬剤師調査の中で見たものですので、2018年という直近のものです。その中で見てみると、神奈川県がこれだけの都市にあってワースト5です。10万人に対して39人の産婦人科医師しかいないと。本来ならば東京が今50人いますので、それと同じぐらいいなければ私はいけないんじゃないかなと、そもそもそういうところに原因がある。神奈川県には今4つの医科大学があります。北里、聖マリアンナ、それから横浜市立大学、それから東海大学、これがメインの4つ。4つあるにもかかわらず産婦人科医が10万人に対して39名しかいない。これはそもそもこういったことも変えていかなければ私はいけないと思います。そういう意味で、やはり町としても1市5町としてこの分娩に当たるこの医師を少しでも。我々営業マンだと思っているんですよ、町長も議員さんも。ぜひそんなことも見ながら、来てもらうような方向をしていかなければいけないのかなというふうに思います。

もう1つ、前に御紹介した、産婦人科医の医師数を見たものです。これも2018年の調査です。これ増えているじゃん、このグラフを見る方もいらっしゃるかもしれませんが。しかしながら毎年、2006年以降医師は約1,000人ずつ増えています。にもかかわらず、ほとんど産婦人科医の増えがない。2006年度当時というのも産婦人科医の不足で足柄上も停止したということがありました。このときから不足をしている。今もってなお不足をしているというのが状況でございます。特に分娩の常勤の産婦人科医の医師というのが減少しているのが顕著ではないかな、そんなグラフでございます。この矢印の部分になります。

もう1点でございますが、産婦人科、産科のこれもやはり現地調査です。年齢別の調査になります。医師になるのは最短で25歳になろうかと思えますから、

20歳が少ないのは当然だと思います。30歳ぐらいになるとほぼ正式な人数が出てくると思いますが。毎年2007年以降が1,000人ずつ増えているにもかかわらず、20代の医師がほとんど増えていない。となると、これから10年20年30年したときに、この産婦人科医というのはかなり少なくなる状況が目に見えてくると思います。根本をやはり変えなければいけないだろうと思います。町にとってまだこんなこと関係ないよというかもしれませんが、でも足柄上病院は今回のこういった状況を受け入れてしまうと、駄々をこねないと、やはり何としても一人でも二人でもいないと、私はこれからどんどん医師も少なくなってしまうんじゃないかなと思います。

以上、3つ質問に入る前にさせていただきました。

この分娩に対しては、やはり今小田原市で分娩可能4件、足柄上郡で1件あります。小田原市立病院で約750件、1年間で分娩があると言われておりますが、2市8町で約2,000件の分娩があるとされています。足柄上がなくなり、この民間の産婦人科、産科だけで十分賄えるのでしょうか。質問をさせていただきます。

子育て健康課長 先ほどの町長の答弁の中でも、現状は上病院の分娩が停止中ということもあって、民間、または市立病院で分娩のほうをお願いしている状況でございます。詳しい状況については山崎議員のほうで状況詳しく承知されていることと思いますので、町としてその分析等はしていないところなんですけど、実際のところやはり足柄上病院でそういった機能がない分については分娩、お子さんをこれから生まれる保護者にとっては近隣の民間の産科医等を探しながら対応してもらおうというような状況でございます。ただ、先ほど町長の答弁にもありましたように、その状況については既に1市5町情報共有して、足柄上病院の産科の再開もお願いしたいという、場合によってはその状況を見ながら県に、また併せて国に要望するというところでやっているのが現状でございます。専門的ながん等の先ほどの質問にあった専門的な医療の部分につきましても、やはり先ほど言った両病院の締結を踏まえた意見交換の中では、やはり病院経営の部分で市立病院、かなりの赤字を抱えているような状況ということでございます。高度化につきましては高額な医療機器等、多大な費用がかかるということで、そういった面でも集約はやむを得ないということで町として考えております。

ですので、維持する部分は県立病院として足柄は維持していただいた中で、機能集約できる部分は機能集約をしてもらって高度化を引き続きお願いするというので、町のスタンスとしては引き続き県・国に地域の足りない部分を、産科医の不足につきましては引き続き要望してまいりたいと考えております。

町長 山崎議員のそのグラフ等は大変理解できますけど、当たり前の方が書いてあったなと私は思っているんです。と申しますのは、先ほど一人でも二人でも上病院という言い方されました。もちろん私たち首長の間でも何とかして産科を残したいということで働きかけているんですけど、産科って何か特別な医師も少ないような、一人や二人じゃ上病院で産科なんかでやれないという現実があるのは御理解できますでしょうかね。いつ何時生まれるか分からないような、そういう産気づいたら一人じゃ無理ですし、二人でも無理じゃないかという、そういった技術もかなり必要な技術になりますので、誰でもできるようなことじゃないだろうと、素人ながら思っております。そういった意味で、もちろん残したいなと思うんですけども、現実の話はずっと聞いてきまして、医師の配置というのはあるんですね。神奈川県、国でやっている、知事とその会に出たんですけど。配置をするにどここの病院に医師がいない、医師というか研修医を派遣するに当たっても、研修医も一人か二人しかいない医師のところに行っても勉強にもならないんで望まないという現実があるようなんですよ。そうすると、やっぱり残念だけでも、小田原市立病院に産科医を集中してそこに医師を派遣し、研修医を集めるような形をして医師を育てるという考え方も必要だと思います。それによって先ほど山崎議員が言ったように産科医が増えていくと。そういった方向性を私は自分なりに描いた中で今回こういう方法しかないというような思いであります。

5 番 町長の言われることは十分存じ上げておるところでございます。先ほど言った一人、二人というのは、これをもし逃してしまったら、私はリスクも、絶対これドクターからも言われます、あります。2006年に福島県で一人の先生が逮捕されました。この事件を知っていると思います。本当に地域に根づいた熱い先生でした。しかしながらたった一人の出産をしたときに亡くなってしまった患者さんがいた。それを刑事事件で訴えられ、それが今産婦人科医が少なくなっている状況でもあろうかと思っております。しかしながら一つ成功例を上げると、

三重県の一つの町で、ある産婦人科の先生を三重大学のジッツ、ジッツというのは関連病院、ジッツェンからくる、まあドイツ語ですが、ジッツ先だったその病院が、産婦人科医がいなくなった。そこにある自治体の長、あるいは院長が産婦人科医を呼んできて、そして今なおも産婦人科を続けている。確かに一人のリスクはあるかもしれない。でも、それを周りが、あるいは市とせつかく協働するわけだから、支えること、それはできるんじゃないかなと私は思っています。教育機関であるのは足柄上病院も一緒です。やはり一人で二人でやることもドクターにとっては大切です。プロですから。でも、多くの人がそれじゃあちょっと心配だよ、リスクがあるからと言って尻込みしてしまう。これも事実だと思います。これに対してもっともっと議論はしていかなければいけない、と私は思っているところでございます。

さて、ワクチンについてですが、やはりリスクということに対して私は先ほども申しましたように、空の注射を打ってしまう、生理食塩水を打ってしまう、また人が打った注射を打ってしまう、コンセントが外れていてワクチンが200何人分か無駄になってしまった。そういったことはしっかりと、せつかくこのワクチン接種対策チームがあるので、やはりフィードバックをしながら、こんな事故があったよ。プロとはいえ寄せ集めのチーム医療だろうというように思っています。ぜひそういったことをどうされているのか、お伺いをしたいと思います。

子育て健康課長 先ほど町長の答弁の中でもあったように、集団接種に関しましては終わった後に必ず反省会等を医療従事者、また職員、スタッフが全体で反省会をした中で、そういったリスク、事故がないような形で次に生かしていく、というような状況でございます。また、併せて町のそういった管理につきましても、職員が責任を持って担当をそれぞれ誰がやるのかということも明確にした中で実施しておりますので、そういうことのないような形で、同じこういった事故事例を共有しながら進めてございます。

5 番 今日の新報で、小田原のある民間病院がワクチン接種に参入をし、6月7日から始まるということが言われています。大きな病院です。200床以上の病院です。そして、7月17日ぐらいまでには終えるようなことを申ししておりました。やはりもう既に動いているかもしれませんが、基幹病院である足柄上病院の先

生、こういった人も含めてやるということも私は必要ではないかなというふうに思っています。医師会の先生方は本当に大変な思いで一日10人から30人程度接種をしているとはいっても、今の現状のものだと非常に大変だというふうなことを言われております。足柄上病院等の先生にお話をされているのでしょうか。

町 長 足柄上病院の院長とはお話しさせていただきまして、5町そろって院長お伺いしました。その中で、平日はなかなか病院があるので大変だけでも、日曜日土曜日は医師の派遣をしてくださる方向で今大井町のほうが一応担当として時間と場所とライン、3レーンでお願いしますとか、そういった具体的なこの時間でどうでしょうかということに要望しましたところ、受け取ってくださったので、もう十中八九、土日を山北の会場と大井の会場の両方で、ローテーションを組んでやっていただけるものと信じております。ほとんどやってくれそうな回答でした。確約はまだ出ていないんですかね。ちょっと担当課に。

子育て健康課長 スケジュールの関係で、7月末まで高齢者のワクチン接種を終了するようというところで、そういった動きの中で、やはりどうしても医師会はこれ以上、特に集団接種については実施日を増やすことができないといった中で、いろんな面で支援の連絡、県等を通じてございました。その中で、やはり足柄地域につきましても県立足柄上病院ということで、まずはそこの医師が派遣できないかということ、先ほど町長の答弁があったように、土日を中心に協力いただける体制ということでお返事、御回答いただいたところで、その中で7月に終われるような日程調整を組んだ中で、今最終的な日程のほうの追加を検討しているところでございます。

5 番 あと8秒あります。県西においては、足柄上病院が妊婦にとって最後の砦となる周産期の再開という方向性も加えることを望んで、私の質問とさせていただきます。

議 長 以上で、5番議員、山崎真弘君の一般質問を終わります。

ここで、お諮りいたします。

一般質問の通告者があと7名残っておりますが、今朝ほど議会運営委員長から報告がありましたように、本日は以上で終了し、延会したいと思います、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

議 長 御異議なしと認めて、本日はこれで延会いたします。

なお、この後14時40分から302会議室において広報広聴常任委員会広報分科会を開きますので、委員の方は移動願います。

お疲れさまでした。

(14時22分 延会)